

戯に側の猫火鉢を出して、さ此を上げるからか
上りといいましたら、鎮ちゃんはお祖父さまが
あたるものは食べてはいけないと仰つたから、夫
はいやだよ」といいました。

二番ばえ

肥後 獨醒軒主人

私の祖父の若い時であつた話です、明治の御代
でなく、天下様の時であつた或る年の秋の祭りに
家中の二番ばえ（士族の二男株です）五六人來て
一週間から滞留つて、お酒をのんだりお飯をたべ
たりして、何時までも歸る摸様がありませんから
祖父は大に困りどりがなして此の二番ばえを歸さ
うーと思つて一つの考へをめぐらし、えん側の風
鈴に墨黒々と一首の歌を下げました

刈り跡に又も生えたる二番ばえ

どーも稻とは云ふに云はれぬ

（稻はいね歸れの義）

これを見て二番ばえの士族等は皆々すすむと歸
つたそーです。

懸賞問答當撰ひろー

- (一) 一羽の鳥をにはとりとは？
 - (二) 幾ツあつても じゅーばこ（重箱）とは？
 - (三) 着るものでないに きせる（煙筒）とは？
 - (四) 一枚の紙をはんし（半紙）とは？
 - (五) 真中を通りながら はし（橋）を渡るとは？
- 一 等
- 姫路市五郎右衛門邸 大竹さく子
- (一) 一羽の鳥を千鳥といふが如し。